

# オーロラ

育成者：ニューヨーク農業試験場  
来歴：「マルゲリット マリーラ」と  
「パートレット」の交雑実生

育成地：アメリカ ニューヨーク州 ジェ  
ニーバ市

## 特性

### ■栽培特性

幼木時は生育が比較的良好で枝の発生は密であるが、結実するにしたがい樹姿は開張性となる。枝は下垂しやすく樹勢が弱りやすいため、樹冠拡大は遅い。また、発育枝と短果枝が主体で中・長果枝は少ない。短果枝は葉芽になることが多く、全体の花芽数が少ない。単為結果性は低い。開花期は「ラ・フランス」より2日程度遅いが、交雑和合性が高く、相互に授粉樹として利用できる。干ばつに弱く葉やけを起こすことがあるが、石ナシや内部褐変などの果実障害の発生は認められない。

### ■果実特性

果実は300～400gと大きく、短びん形で果色は緑黄色で全面にうすいサビが入る。陽向面が淡く着色することがある。果肉は溶質で滑らかであり、果汁は多い。収穫時の果肉硬度は15～16ポンドで、追熟時の硬度は2～3ポンドが食べ頃である。追熟期間は無予冷で1～2週間である。追熟時の糖度は14～15%と高く、酸度は0.15～0.20%とやや低い。食味は甘く、芳香があり、早生品種の中で最良な品質を誇る。熟期は「パートレット」と同時期かやや遅く、満開日からの成熟日数は120～125日頃と考えられるが、気象・地域条件によっては「パートレット」より早く成熟する場合がある。予冷は3～5℃で1～2週間程度、追熟は15～20℃の条件で7～10日程度で可食期になる。追熟時には地色が黄色になり、薄いサビの影響で全体が黄金色になるため、追熟の判断がしやすい。また、やや未熟またはやや過熟な時期に収穫した果実でも比較的追熟がうまくいくため、追熟の扱いは容易である。日持ちは長く、冷蔵によって最長12月までの販売が可能である。

### ■病虫害抵抗性および栽培上の留意点

慣行防除下で目立った病虫害の発生は認められない。隔年結果性が強いいため、着果過多には注意する必要がある。着果程度は6頂芽に1果程度（葉果比は50枚程度）となるように摘果する。人工授粉は結実率を向上させる。枝の切りつめや過剰な窒素施肥は花芽の着生に悪影響を与える。平棚栽培は立木栽培に比べて結実が安定しており、果実品質がそうろう。立木栽培の場合には枝は支柱立てや枝つりを行い、水平から少し角度を上げるようにする。クインスA台との接ぎ木親和性は比較的良好。

### ■地域適応性

現在は山形県や長野県を中心に普及に移されている。果実品質が安定しており、問題となる病虫害の発生も認められないことから、「パートレット」に代わる早生の有望品種として全国の西洋ナシ産地に適すると考えられる。

(別所英男)